

教育・実務業績書

平成30年10月1日現在

| 職 業 分 野 | 職 務 内 容 の キ ー ワ ー ド | |
|---|---|--|
| 救急救命分野 | 救急救命士学生に対する教育論 | |
| 教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項 | | |
| 事項 | 年月日 | 概 |
| 1 教育方法の実践例 ICTを活用した救急救命教育の実践 | 平成26年4月 ～現在 | 救急現場のリアリティーを最大限に伝えるため、動画や画像を用いた講義を実現した。 |
| 2 作成した教科書, 教材 ドラマでわかるDVD 君も持てる「救命の手」一次救命処置! | 平成28年 | 厚生労働省厚生労働省科学研究基金 中学校保健体育教材 制作 千葉大学教育学部附属中学校 高柳 佐土美 監修 増茂誠二 |
| 3 教育上の能力に関する大学等の評価 保健科学専門職大学 (仮称) | 平成30年9月1日 | 増茂氏は自治体の消防本部に入職以降、消防司令補、救急副小隊長を経て、厚生労働省救急救命士指定養成校の学科長を経験している。 ・同氏は日本救急医学会でのICLS指導実績、日本臨床救急医学会等で多数の発表している。 以上の点より、実務教員(教授職)として救急医学概論、救急処置概論Ⅰ(観察)、救急処置概論Ⅱ(処置)を担当することに適していると判断した。 |
| 4 その他 救急救命士教育大会における発表 「教員の質の向上について」 | 平成25年8月 | 救急救命士養成機関における教員の質の向上について講義する。リアリティーの強調が学生の教育効果に著しく影響する。 |
| 実 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項 | | |
| 事項 | 年月日 | 概 |
| 1 資格, 免許 救急救命士 救急救命学修士 気管挿管実習修了 薬剤投与実習修了 救急救命士養成所教員のためのインストラクターコース修了 臨床研究従事者研修修了 | 平成13年11月 平成20年3月 平成21年 6月16日 平成19年 9月7日 平成20年 12月21日 平成26年 3月31日 | 第20677号 国土舘大学大学院スポーツシステム研究科スポーツシステム専攻 第07MD107号 順天堂大学附属浦安病院 日本医科大学多摩永山病院 JSISH日本医療教授システム学会 千葉大学医学部附属病院 |
| 2 職務の経歴及び職務上の業績 昭和61年厚木市消防本部に採用された。 神奈川県消防学校を卒業後、消防隊員を経て平成6年救急隊員を命じられた。その後、市民に対する応急処置法を中心に普及活動をする。平成13年救急救命士国家試験合格後は本 | | |

| | | |
|---|---------------------------|---|
| 署救急隊副小隊長として、数多くの現場経験をしている。 | | |
| 日本救急医学会における指導実績 日本救急医学会JPTEC指導 | 平成19年 7月15日 | 第6回千葉県JPTECインストラクターコース |
| 日本救急医学会JPTEC指導 | 平成20年 5月31日 | 第8回鎌倉古道外傷セミナー |
| 日本救急医学会JPTEC指導 | 平成21年 3月14日 | 第12回東葛南部プロバイダーコース |
| 日本救急医学会JPTEC指導 | 平成21年 6月14日 | |
| 日本救急医学会ICLS指導 | 平成23年 6月26日 | 第4回湾岸JPTECプロバイダーコース |
| 日本救急医学会ICLS指導 | 平成24年 11月25日 | 誠馨会千葉ICLSコース |
| 日本救急医学会ICLS指導 | 平成23年 6月26日 | 誠馨会千葉ICLSコース |
| ワークショップ 日本救急医学会ICLS指導 | 平成25年 6月16日 | 日本救急医学会認定ICLS |
| 日本救急医学会ICLS指導 | 平成26年 8月24日 | 誠馨会千葉ICLSコース |
| 日本救急医学会ICLS指導 | 平成27年 1月25日 | 誠馨会千葉ICLSコース |
| 日本救急医学会ICLS指導 | 平成29年 7月9日 | 第3回市原ICLSコース |
| | | 第1回北総救命会ICLSコース SCCコース運営副責任者 |
| 3 当該分野の実務業績に対する産業界等の評価 一般社団法人 全国救急救命士養成施設協議会BLS普及啓発委員長 | 平成23年4月 | 全国の救急救命士学生に対し地域の救急蘇生率向上のための普及促進させる。 |
| 一般社団法人 全国救急救命士養成施設協議会副代表理事に就任 | 平成28年4月 (30年副代表理事任期終了) | 救急救命士法44条2項の変更に伴う要望書を前文部科学大臣松野博一氏に提出。厚生労働省医政局地域医療計画課長 佐々木健に要望(同席:田中秀治医学博士)。 |
| 総務省消防庁長官と面談 | 平成30年12月21日 | 田中秀治医学博士同伴 |
| 4 その他 | | |
| 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項 | | |
| 事項 | 年月日 | 概 |
| 1 著書, 論文, その他の成果発表 | | |
| 1 e-Word 貫きたい志救命道 [単著] | 平成26年 | 20年の消防経験から救急救命士の役割や将来の救急救命士像を解く。暴力団抗争による |
| EmergencyCare メディカ出版 2014vol127No7 July | | る負傷者の処置経験や、救急救命士が現場活動の中で特に必要な知識や技術、解剖学の重要性などを解く。 |

| | | |
|--|----------------|---|
| <p>2 救命教育のICT活用と人間教育 [単著] Jレスキュー イカロス出版 2014 vol172 Novembar</p> | <p>平成26年</p> | <p>専門学校だからこそできる人間教育。ICT技術がリアル感を共有。救急救命士養成校において国内初のICT教育を実現した。ICT教育が生み出すリアリティーが今後救急救命士教育に多いに活きる事を解く。</p> |
| <p>4 小中学校養護教諭のBLS技能向上に向けた指導資料などの開発と研修のための基礎研究 [共著] 平成27年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（奨励研究）</p> | <p>平成27年4月</p> | <p>安全なスポーツ環境の確保のために、学校教育現場でのAEDの積極使用を含めた蘇生教育の強化を推進する必要がある。そこで、2年生の生徒を対象に、科学的根拠に基づいた応急手当の意義と一次救命処置の実習における評価する視点を明確にした授業展開をした。授業に取り組んだ結果、単に心肺蘇生の手技を形として学ぶのではなく、救命の意義と自分の手が「救命の手」になることを理解させ、人間としての倫理観、価値観の育成に寄与することが示唆された。さらに指導者のトレーニングの必要性についても確認できた。</p> |
| <p>5 ビジュアル教材「救急救命は最初の対応がとても大切」「急に人が倒れた！どうしたんだろう」 [共著] 月刊「心とからだの健康」健学社第24巻第10号</p> | <p>平成26年6月</p> | <p>クイズと答えの2枚のビジュアル教材の壁新聞である。クイズ編では「急に人が倒れた！どうしたんだろう」と動かなくなった友達がなぜ動かなくなったのか3択にした。答え編では、心臓が止まったときにどうしたらいいのか胸骨圧迫の手技、AEDの使用について写真入りで解説している。</p> |
| <p>6 ワークショップ「救急救命指導者メソッド」 [共著] 第22回日本養護教諭教育学会学術集会抄録p246-247</p> | <p>平成26年1月</p> | <p>日本養護教諭教育学会</p> |

| | | |
|--|----------------|--|
| <p>7 BLS講習会 スタッフと行う緊急対処 [単著] 第16回千葉県歯科医学大会 京成ミラマ ーレホテル</p> | <p>平成27年2月</p> | <p>より良き歯科臨床を目指し医療の原点に還る平成16年非医療従事者においてもAEDが使用できる事できるようになった。 歯科医療におけるキシロカインによるアナフィラキシーショックなどが問題視されている中、歯科医師自ら救急蘇生法が実施できる事が必須であるという事が言える。本学会において歯科医師を中心として心肺停止の原理について論述する。</p> |
| <p>8 BLS講習会 スタッフと行う緊急対処 [単著] 第18回千葉県歯科医学大会 京成ミラマ ーレホテル</p> | <p>平成29年2月</p> | <p>歯科医療におけるCPRについて論述する。キシロカインによるアナフィラキシーショックなどが問題視されている中、歯科医師自ら救急蘇生法が実施できる事が必須であるという事が言える。本学会において歯科医師を中心として心肺停止の原理について論述する。</p> |
| <p>9 中学生における救命教育の必要性とそのあり方 [共著] 日本臨床救急医学会雑誌</p> | <p>平成20年4月</p> | <p>千葉県市原市内の中学校に対し「命の教育」を実施した。中学生の受講者に対しアンケート調査を実施した結果多くの中学生が「命の教育」に対する心の動きが生まれた。知識と技術を習得する事により、人間の倫理観が生まれる事が解った。</p> |
| <p>10 小学生を対象にしたBLS教育の効果の検証 [共著] 日本救急医学会雑誌 24巻8号</p> | <p>平成25年8月</p> | <p>全校児童を対象にBLS教育の実施した。低学年に関しては人を呼びに行く事、119番通報ができることなどを到達点とした。また、高学年に関しては知識と技術の定着を目標とした。 アンケート調査により、「人を救いたい」という気持ちが芽生えてくる事が判明した。</p> |
| <p>11 中学生における心肺蘇生法教育実施後の知識の長期定着についての検討 [共著] 日本臨床救急医学会雑誌</p> | <p>平成21年</p> | <p>中学生に対し心肺蘇生法教育を実施した。 知識の定着について3ヶ月後、半年後、一年後の知識の定着を尺度化した。 その結果、心肺蘇生法教育か</p> |

| | | |
|---|-------------------------|---|
| <p>12 小学生における心肺蘇生法教育のあり方 [共著] 日本臨床救急医学会雑誌 12(2)137</p> | <p>平成21年</p> | <p>ら3ヶ月経過した時点で大半の知識が忘れていた事が解った。心肺蘇生法教育は定期的な受講する事が極めて重要である事が判明した。</p> |
| <p>13 国際学会The Basic Life Support Education For The Elementary School Pupil [共著] ACEM 2013 The 7th Asian Conference on Emergency Medicine アジア救急医学会 東京フォーラム</p> | <p>平成27年8月</p> | <p>千葉県内市原市における小学生に対しBLS教育を実施した。アンケート調査により、実技、知識の定着を尺度化した。 アジア救急医学会にて国際発表をする。日本の小学生に対するBLS教育の有効性を解く。</p> |
| <p>14 国際学会The Effectiveness of School CPR Trainer Provided By Elderly People [共著] EMS ASIA 2016 The 4th Asian EMS Conference The-K Hotel Seoul Korea (韓国)</p> | <p>平成28年8月</p> | <p>アジア救急医学会にて国際発表する。千葉縣市原市の高齢者に対しBLS教育を実施した。今後日本では著しい高齢化が予想される中、高齢者に対しBLS教育を実施し、そのBLSを地域に普及する事を目標にした。 長時間かけて高齢者の教育を実施し知識と技術を定着させた。その結果、地域に普及できるスキルを身につけたほか、自らの健康管理にも寄与している事が判明した。</p> |
| <p>15 救急医療分野におけるニーズと医療機器事業の可能性 救急医療分野における医療機器開発の可能性を考えるシンポジウム 信州メディカル産業振興会主催 (松本商工会館)</p> | <p>平成24年5月</p> | <p>心肺蘇生音声誘導装置の開発とその有効性について</p> |
| <p>16 東京オリンピック開催に伴う災害医療のあり方 東京都における災害医療のあり方 猪瀬直樹 東京都知事招聘開催 (千葉日報新聞報道)</p> | <p>平成25年 10月18日</p> | <p>東京都における災害医療についてシンポジウムを行う。東京都大島の被災地より会場に駆けつける。東京オリンピックでの危機管理について、今後の救急対応などについて論じる。</p> |
| <p>17 救急救命士制度のあり方について 救急救命士制度あり方研究会 神奈川県知事 黒岩祐治を招聘 (千葉日報新聞報道)</p> | <p>平成25年 3月6日</p> | <p>救急救命士制度の歴史に触れ、救急救命士制度の問題点について語り合う会を開催した。救急救命士の父とも呼ばれる黒岩祐治氏を招聘し制度化に向けての経緯を受け、本</p> |

| | | |
|---|---------------------------------|--|
| <p>18 心肺蘇生法音声誘導装置 (E. R. V) 開発 製造 バンダイ (株シーズ) 販売元 日本船舶薬品株式会社 (千葉日報新聞報道)</p> | <p>平成23年 9月15日</p> | <p>制度の問題点などを語る。 「緊急時、子供でも高齢者でもワンプッシュにて心肺蘇生法を実施する事ができる誘導装置を開発する。 千葉市医師会などからの推薦もあり50,000個が売れるヒット商品となる。岩手県一関市では毎年小学生入学時には配布されている。また、平成28年AED条例が可決された千葉県議会ではERVの有効性が紹介された。</p> |
| <p>19 スポーツアスリートと救急蘇生学を考える会 救急蘇生学を考える会 座長 増茂誠二 読売新聞報道 日刊スポーツ新聞報道 デイリースポーツ新聞報道</p> | <p>平成22年3月17日</p> | <p>救急蘇生学を考える会を実施する。格闘家 山本キッド氏を迎え、心肺蘇生法の実演を行い、救急救命士学生に対し解剖学的側面から蘇生のあり方を考え論述する。</p> |
| <p>20 全国救急救命士学生救命技術選手権大会開催 全国救急救命士養成施設協議会BLS普及啓発委員長として、全国大会の実行委員長を務める。(フクダ電子アリーナ)</p> | <p>平成25年12月</p> | <p>国内で初めて救急救命士養成施設の救急救命技術全国大会を開催する。救急救命技術大会をメディカルラリー方式を採用し実施する。 東京オリンピック・パラリンピックに向け、英語での救急デモンストレーションを実施する。</p> |
| <p>21 日本養護教諭教育学会第22回学術集会にて講演 22 千葉市医師会・歯科医師会・薬剤師会BLS講習 千葉市総合保健福祉センター講堂 主催 千葉市医師会</p> | <p>平成26年10月11日 平成24年～現在</p> | <p>三師会会員 (医師・看護師・薬剤師等) に対しBLS教育並びに実技指導を行う。</p> |
| <p>23 千葉・市原市内小・中・高等学校に対する「命の教育」 千葉市 千葉大学教育学部附属中学校 新宿小学校 緑小学校 市原市辰巳台西小学校 市原中学校 ちはら台南中学校 ちはら台西中学校 市東中学校 東海中学校 辰巳台中学校 千種中学校 若葉中学校 八幡東中学校</p> | <p>平成18年～現在</p> | |

| | | |
|---------------------------|---------|---|
| 2 特許等 第7稿レスキューボイス（申請中） | 平成28年7月 | 特許願P16-4 A61H 31/00 100169188弁理士 寺岡秀幸 |
|---------------------------|---------|---|